

新総合体育館需要予測調査結果のポイント

I 「スポーツ振興の拠点」機能の調査編

第1章 類似施設の利用状況等の調査・分析

○ 全国の類似施設※62施設を対象に調査を実施

※「スポーツ振興の拠点としての機能」と「多目的利用による交流拠点としての機能」を備えた施設
そのうち、51施設（82%）から回答

（調査内容）

施設の規模・構成，利用状況，稼働率，開催された主なイベント等

（調査結果（抜粋））

1 調査対象施設

全国の屋内スポーツ・コンサート・イベント施設等のうち，最大収容人数が8千人（西日本は5千人以上）以上の施設等：62施設

⇒ 調査回答施設：51施設（うち整備済み：46施設 未整備：5施設）

2 主な類似施設における最大収容人数及び競技面数

施設名	最大 収容人数 (メイン)	アリーナ		武道施設		
		メイン (バスケット)	サブ (バスケート)	柔道場	剣道場	弓道場
北海道立総合体育センター	10,000	4	2	2	2	近12人
宮城県総合運動公園総合体育館	7,063	4	1	—	—	—
あづま総合体育館	6,000	3	1	—	—	—
群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	9,000	4	2	—	—	—
高崎アリーナ	6,015	4	1	2	2	—
有明アリーナ	15,060	3	2	—	—	—
東京体育館	10,000	4	2	—	—	—
武蔵野の森総合スポーツプラザ	10,000	4	2	—	—	—
いしかわ総合スポーツセンター	6,000	4	2	—	—	—
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	10,000	4	2	—	—	—
愛知県体育館	7,407	3	1	—	—	—
京都府立体育館	8,000	3	2	—	—	—
大阪府立体育会館	6,000	4	2	2	2	—
大阪市中央体育館	10,000	4	2	2	2	—
和歌山ビッグホール※	8,500	4	—	—	—	—
岡山県総合グラウンド体育館	5,084	4	1	—	—	—
広島県立総合体育館	10,001	4	2	4	4	近12人
大村市体育文化センター	5,000	3	1	—	—	—
熊本県立総合体育館	4,110	2	2	—	—	—
鹿児島アリーナ	5,700	3	2	2	2	近10人
全施設平均	9,477	3.45	1.59	2.3	2.3	—

※ 隣接の「和歌山ビッグウエーブ」にはバスケット2面のアリーナ及び柔剣道場計4面がある。

3 類似施設における利用状況（メインアリーナ）※ 全施設平均

日数稼働率	コマ数稼働率（平日）	コマ数稼働率（土日）
85.2%	77.5%	87.7%

4 主な類似施設における稼働率及び構成比（メインアリーナ）

施設名	稼働率	アマチュアスポーツ		プロスポーツ	スポーツ計	多目的利用		多目的利用計
		大会	その他			コンサート	その他	
高崎アリーナ	80%	28%	70%	1%	99%	1%	1%	2%
あづま総合体育館	100%	70%	25%	2%	97%	1%	2%	3%
鹿児島アリーナ	91%	66%	6%	18%	90%	1%	9%	10%
大阪府立体育会館	90%	30%	20%	40%	90%	5%	5%	10%
大村市体育文化センター	95%	70%	15%	0%	85%	0%	15%	15%
岡山県総合グリーン体育館	100%	70%	10%	5%	85%	0%	15%	15%
和歌山ビッグホーブル	76%	40%	40%	0%	80%	10%	10%	20%
愛知県体育館	88%	50%	0%	25%	75%	25%	0%	25%
広島県立総合体育館	95%	60%	0%	0%	60%	20%	20%	40%
宮城県総合運動公園総合体育館	96%	29%	31%	0%	60%	37%	3%	40%
大阪市中央体育館	97%	50%	0%	10%	60%	10%	30%	40%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	85%	27%	26%	0%	53%	39%	8%	47%

5 類似施設で開催された主なイベント

- スポーツイベント
各種競技の全国大会・国際大会，Bリーグ・Vリーグ・Fリーグ等のプロスポーツ，大相撲等のスポーツ興行 等
- コンサート・その他イベント
コンサート，ショー（アイスショー，マーチングフェスティバル），その他イベント（展示会，学会，研修会）等

第2章 各種スポーツ大会の開催状況の調査・分析

- 中央競技団体及び県内競技団体に対し、新総合体育館（本施設）の利用意向について調査
 - ・ 中央17競技団体（17競技）
（調査内容）
開催が想定される全国大会等、開催に必要な条件（施設・立地）等
 - ・ 県内17競技団体（17競技）
（調査内容）
開催が想定される全国大会等、本施設での県大会等の利用意向、本施設に対する意見等

（調査結果（抜粋））

1 中央競技団体調査結果

- 利用意向のある中央競技団体：8団体
ボクシング、バレーボール、バスケットボール、ウェイトリフティング、ハンドボール、フェンシング、弓道、銃剣道
- 開催が想定される全国大会等：17大会
国際大会：3 全国大会：9 西日本大会：1 九州大会：4
- 上記大会の開催に必要な施設条件（主な意見）
サブアリーナ等のアップスペース、一定規模以上の観客席、その他諸室等
- 上記大会の開催に必要な立地条件（主な意見）
良好な交通アクセス、周辺の宿泊施設の充実等

2 県内競技団体調査結果

- 県内競技団体主催の各種大会：216大会（日数：371日 参加人数：約19万人）
- 本施設の利用意向
意向有：91大会 条件付利用意向有：111大会 計202大会
- 開催が想定される全国大会等
全国大会：35 西日本大会：1 九州大会：19 計55大会
- 本施設に対する意見（主なもの）
サブアリーナ等のアップスペース、各種大会の基準に適合した施設規模、会議室、更衣室等諸室の充実、競技用具の保管スペースの確保等

Ⅱ 「多目的利用による交流拠点」機能の調査編

第1章 国内のコンサート・イベント市場動向等の分析

- 国内のコンサート・イベント市場動向等について、各種データをもとに分析
 - 類似施設におけるコンサート・イベントの開催状況について、本施設と立地条件が類似する施設※における開催状況を分析
 - ・ あづま総合体育館（福島県）、静岡県小笠山総合運動公園アリーナ、和歌山ビッグホエール、岡山県総合グラウンド体育館等
- ※ 国内大都市圏の主要駅（博多駅等）から60～120分でアクセス出来る立地の施設

（調査結果（抜粋））

1 国内のコンサート市場動向等分析

- 国内におけるコンサート等公演数 : 31,889公演（2019年）
うち、九州エリア（沖縄県を除く）における公演数 : 2,458公演（ 〃 ）

※ 九州各県におけるコンサート等公演数（2019年）

福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
1,720	58	120	216	81	81	182

- 類似施設におけるコンサート開催状況（R元年度）
本施設と立地条件が類似する施設として、国内大都市圏の主要駅（博多駅等）から60～120分でアクセスできる立地の施設における開催状況を分析

※ 類似施設におけるコンサートの開催状況

施設名	県立	利用の割合
あづま総合体育館	○	1%
高崎アリーナ		1%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	○	3.9%
和歌山ビッグホエール	○	1.0%
岡山県総合グラウンド体育館	○	0%
大村市体育文化センター		0%
鹿児島アリーナ		1%
平均		7.4%（県立12.5%）

2 国内のその他イベント市場動向等分析

- 国内の国際会議開催件数 : 3,621件（2019年）
うち、中・大型国際会議 : 471件（ 〃 ）
- 国内の展示会・見本市開催規模 : 1,586万日㎡（2017年）
- コンベンション施設の現状分析
鹿児島県におけるコンベンション施設の現状分析を行うため、他の都道府県との比較を実施

※ 人口（千人）当たりのコンベンション施設収容人数の比較

i	人口（千人）当たりのコンベンション施設収容人数の全国平均値	約13.2人
ii	上記指標に基づく鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数	21,822人
iii	鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数	17,767人
iv	全国平均値と鹿児島県の既存施設との差（ii－iii）	4,055人

※ 県内総生産（百億円）当たりのコンベンション施設収容人数の比較

i	県内総生産（百億円）当たりのコンベンション施設収容人数の全国平均値	約34.2人
ii	上記指標に基づく鹿児島県におけるコンベンション施設収容人数	18,811人
iii	鹿児島県の既存コンベンション施設収容人数	17,767人
iv	全国平均値と鹿児島県の既存施設との差（ii－iii）	1,044人

○ 類似施設におけるその他イベント開催状況（R元年度）

本施設と立地条件が類似する施設として、国内大都市圏の主要駅（博多駅等）から60～120分でアクセスできる立地の施設における開催状況を分析

※ 類似施設におけるその他イベントの開催状況

施設名	県立	利用の割合
あづま総合体育館	○	2%
高崎アリーナ		1%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	○	8%
和歌山ビッグホール	○	10%
岡山県総合グラウンド体育館	○	15%
大村市体育文化センター		15%
鹿児島アリーナ		9%
平均		8.6%（県立8.8%）

第2章 民間事業者へのヒアリング調査

○ イベントやMICEの企画実績のある企業に対し、本施設の需要や誘致可能性について、ヒアリングを実施

（調査内容）

本施設の利用意向、想定されるイベント、望ましい条件、市場動向等

（調査結果（抜粋））

○ 民間事業者へのヒアリング調査結果

本施設でのイベント利用（プロスポーツ、コンサート・その他イベント等）の需要を把握するため、イベントやMICEの企画実績のある民間事業者7社に対し、ヒアリングを実施

[ヒアリング調査結果（主な意見）]

（利用意向）

- ・ コン서트については、立地、規模、設備などの条件を満たせば利用する。
- ・ 九州におけるコンサート開催の優先順位は福岡→熊本→鹿児島の順であるが、熊本には現在コンサート開催に適した施設がないことから鹿児島での開催の可能性が高い。

- ・ その他イベント利用に関しても、立地、規模、設備などの条件を満たせば利用の可能性がある。

(想定されるイベント)

- ・ スポーツ利用（Bリーグ、Vリーグ、eスポーツ）、興行利用（コンサート、サーカス等）、その他イベント利用（展示会、大会・集会、学会、インセンティブツアー、各種イベント）など

※ 開催頻度・開催日数に関する意見

	コンサート	その他イベント
開催頻度	年12件～5件	月1回以上の開催可能性ありとする意見の一方、月1回のイベントは難しいとの意見あり
開催日数	設営1～2日 公演1～2日 撤去1日（24時間作業可能であれば不要）	1～2日

(望ましい条件)

- ・ アリーナツアーなどの大規模なイベントの場合、九州や全国からのアクセスが重要となる。
- ・ 宿泊施設や商業施設が近くにあることが望ましい。
- ・ コン서트、その他イベント（MICE等）の両方を誘致する場合は8,000席以上の規模の施設とすることが望ましい。
- ・ 床材については、スポーツ利用の観点からは木床、コンサートやMICE利用を促進する観点からはコンクリート床が望ましい。
- ・ コン서트利用に当たっては十分な天井高が望ましい。
- ・ 鹿児島島の立地等も踏まえた施設利用料金を設定してほしい。
- ・ 2年以上前からの予約ができるようにしてほしい。

(市場動向)

- ・ 新型コロナウイルスの影響によるコンサート開催数の減少は一時的なものであり、いずれワクチンの開発等によりコンサート開催数は回復することが見込まれる。
- ・ その他イベントについて、オンライン開催やオンラインとリアルのミックスでの開催等の多様化が進み、施設の利用のされ方が変わる可能性があるが、イベント全体の需要は増加することが見込まれる。

Ⅲ 需要予測編

第1章 新総合体育館の需要予測等

○ I～IIの調査結果や現体育館の利用状況を踏まえ、本施設の需要予測を実施

○ 予測に当たっては、類似施設の状況等を踏まえ諸条件を設定

(施設の規模・構成)

次のとおり県工業試験場跡地のシミュレーション(H30.11)時における規模・構成を仮置き

- ・メインアリーナ：バスケ4面，観客席8千席程度
- ・サブアリーナ：バスケ1面
- ・柔剣道場：各3面
- ・弓道場：近的(12人立)，(遠的利用も可)

(立地)

類似施設の状況を踏まえ、国内大都市圏の主要駅(博多駅等)から60分～120分でアクセスできる立地を設定

(国内大都市圏の主要駅から60分～120分でアクセスできる類似施設)

施設名	立地市	人口	交通アクセス	県立
あづま総合体育館	福島市	28万人	仙台駅から車で75分	○
高崎アリーナ	高崎市	37万人	東京駅から新幹線で70分	
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	袋井市	9万人	名古屋駅から新幹線で90分	○
和歌山ビッグホール	和歌山市	37万人	大阪駅から車で70分	○
岡山県総合グラウンド体育館	岡山市	71万人	広島駅から新幹線で60分	○
大村市体育文化センター	大村市	10万人	博多駅から車で100分	
鹿児島アリーナ	鹿児島市	60万人	博多駅から新幹線で110分	

※ 今回調査で回答のあった51施設のうち、本県と立地条件が類似する7施設を抽出

※ 政令指定都市：岡山市

中核市：福島市，高崎市，和歌山市，鹿児島市

※ なお、これらの条件については、今後の検討の中で具体的に決定されていくことから、予測結果はある程度幅があるものとなった。

《 需要予測結果 》

- ・ 施設の稼働率については、メインアリーナで概ね79%～94%程度
- ・ 利用の割合については、スポーツ利用が概ね76%～87%、多目的利用が概ね13%～24%
- ・ 利用者数については、概ね28万人～41万人（メインアリーナ:概ね20～33万人）

①各施設毎の利用日数及び稼働率

	メインアリーナ	サブアリーナ	柔道場	剣道場	弓道場
利用日数	285～338日	313～355日	281～317日	292～328日	262～298日
稼働率	79～94%	87～99%	78～88%	81～91%	73～83%

②用途別構成比（利用割合）※メインアリーナ

	アマチュアスポーツ		プロスポーツ	スポーツ利用計	多目的利用		多目的利用計
	スポーツ大会	県民利用			コンサート	その他	
日数	139～153日	100日	6～9日	245～262日	20～48日	20～28日	40～76日
割合	43～51%	30～35%	2～3%	76～87%	7～15%	7～9%	13～24%

（稼働率及び構成比の考え方）

1 各施設毎の利用日数及び稼働率

- ・ 「Ⅰ「スポーツ振興の拠点」機能」及び「Ⅱ「多目的利用による交流拠点」機能」の調査結果及び現体育館の利用状況を踏まえ、メインアリーナ、サブアリーナ等ごとに年間利用日数を算出
- ・ 施設の年間開館日数と、メインアリーナ、サブアリーナなど、各施設それぞれの年間利用日数から各施設毎の稼働率を算出

2 用途別構成比（利用割合） ※メインアリーナ

- ・ Ⅰ～Ⅱの調査結果及び現体育館の利用状況を踏まえ、アマチュアスポーツ（全国・県大会等、その他県民利用）及びプロスポーツによるスポーツ利用と、コンサート及びその他イベントによる多目的利用の年間利用日数を算出
- ・ 施設の年間開館日数と、スポーツ、多目的利用、それぞれの年間利用日数から、各利用形態ごとの割合を算出

（算出方法）※メインアリーナ

利用形態	考え方
スポーツ大会	<p>○県大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内競技団体から利用意向が示された大会について、その規模や開催日程等を考慮し利用日数を算出 ⇒ 137日（上位予測） ・ このうち、「実際の利用は新しい体育館の姿を見なければ分からない」と回答した大会を除いた。 ⇒ 125日（下位予測） <p>○全国大会、九州大会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央競技団体、県内競技団体からの利用意向を踏まえ、全国大会や九州大会等の利用日数を算出 ⇒ 16日（上位予測） ・ 中央競技団体の利用意向を踏まえるとともに、県内競技団体からの利用意向のうち特に実現可能性の高い九州大会の開催を想定し、利用日数を算出 ⇒ 14日（下位予測）

利用形態	考え方
県民のスポーツ利用	○現体育館の利用状況（R元年度：200日）に本施設整備後のサブアリーナの利用を加味するとともに、類似施設の状況を踏まえ、利用日数を算出 ⇒ 100日
プロスポーツ利用	○「鹿児島レブナイズ」の現体育館におけるホームゲームの開催回数（R元年度：6日）及び将来のVリーグでの利用（3日程度）も見込み利用日数を算出 ⇒ 9日（上位予測） ※ このうち、実現可能性の高い「鹿児島レブナイズ」の利用を想定 ⇒ 6日（下位予測）
コンサート利用	○プロモーター等へのヒアリング結果や類似施設の開催状況等を踏まえ、利用日数を算出 ①ヒアリング結果：年12件～5件 日数換算：48日～20日（1件当たりの日数：4日） ②類似施設の開催状況：年10.1件～6.0件 日数換算：40.5日～24.0日 ※①～②を踏まえ、上位予測：48日（年12件）、下位予測：20日（年5件）に設定
その他イベント利用 [想定されるイベント] ・学会（ポスターセッション、学術総会） ・インセンティブツアー ・集会（入学式、卒業式） ・各種イベント（就活サミット）	○プロモーター等へのヒアリング結果や類似施設の開催状況等を踏まえ、利用日数を算出 ①ヒアリング結果 月1回以上のイベント開催の可能性ありとする意見がある一方、月1回のイベントは難しいとの意見あり。 ②類似施設の開催状況：年14.3件～14.0件 日数換算：28.5日～27.9日（1件当たりの日数：2日） ※①～②を踏まえ、上位予測：28日（年14件）、下位予測：20日（年10件）に設定

（参考1）類似施設（各主要駅から60～120分）における開催状況（R元年度）（再掲）

施設名	県立	コンサート	その他イベント
あづま総合体育館	○	1%	2%
高崎アリーナ		1%	1%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	○	39%	8%
和歌山ビッグホール	○	10%	10%
岡山県総合グラウンド体育館	○	0%	15%
大村市体育文化センター		0%	15%
鹿児島アリーナ		1%	9%
平均		7.4%（県立12.5%）	8.6%（県立8.8%）

①コンサートの利用日数

全施設：324日※¹（年間稼働日数）×7.4%＝24.0日（6.0件※²）

県立：324日（年間稼働日数）×12.5%＝40.5日（10.1件）

②その他イベントの利用日数

全施設：324日（年間稼働日数）×8.6%＝27.9日（14.0件※³）

県立：324日（年間稼働日数）×8.8%＝28.5日（14.3件）

※1 年間稼働日数は、類似施設の平均稼働率（88.4%）から算出

※2 利用件数は1件当たり4日で換算 ※3 利用件数は1件当たり2日で換算

(参考2) 現体育館の利用実績 ※年間稼働日数328日 (稼働率: 91%)

利用形態	日数	割合	内容
①アマ (国際・全国大会等)	2	0.6%	西日本空手道選手権
②アマ (県大会等)	107	32.6%	各種県大会等
③アマ (県民利用等)	209	63.7%	一般利用, 競技教室等
④プロ (スポーツ興行)	6	1.8%	レブナイズ公式戦
⑤その他 (スポーツ利用以外)	4	1.2%	鹿大入学式, 県戦没者追悼式
計	328	100%	

(参考3) 主な類似施設における稼働率及び構成比 (メインアリーナ) (再掲)

施設名	稼働率	アマチュアスポーツ		プロスポーツ	スポーツ計	多目的利用		多目的利用計
		大会	その他			コンサート	その他	
高崎アリーナ	80%	28%	70%	1%	99%	1%	1%	2%
あづま総合体育館	100%	70%	25%	2%	97%	1%	2%	3%
鹿児島アリーナ	91%	66%	6%	18%	90%	1%	9%	10%
大阪府立体育会館	90%	30%	20%	40%	90%	5%	5%	10%
大村市体育文化センター	95%	70%	15%	0%	85%	0%	15%	15%
岡山県総合グリーン体育館	100%	70%	10%	5%	85%	0%	15%	15%
和歌山ビッグホエール	76%	40%	40%	0%	80%	10%	10%	20%
愛知県体育館	88%	50%	0%	25%	75%	25%	0%	25%
広島県立総合体育館	95%	60%	0%	0%	60%	20%	20%	40%
宮城県総合運動公園総合体育館	96%	29%	31%	0%	60%	37%	3%	40%
大阪市中央体育館	97%	50%	0%	10%	60%	10%	30%	40%
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	85%	27%	26%	0%	53%	39%	8%	47%

(利用者数算出の考え方)

前述の利用日数をベースに、競技団体への調査結果、現体育館の利用状況、類似施設の状況等を踏まえ、施設全体の利用者数を算出

(算出方法) ※ メインアリーナ

利用形態	利用日数	考え方
県大会	上位予測: 85,784人 下位予測: 80,769人	県内競技団体への利用意向調査結果 (R元年度実績)
全国大会等	九州大会: 251人/日 全国大会等: 558人/日	全国競技団体への調査結果 (R元年度実績)
プロスポーツ利用	2,938人 (レブナイズ) 2,000人/日 (Vリーグ)	・鹿児島レブナイズ公式戦 (4試合) 来場者数 (2019~2020シーズン実績) ・Vリーグ平均観客数 (2018~2019実績)
県民のスポーツ利用	79人/日	現体育館における年間利用者数から、各種競技大会、スポーツ興行、スポーツ以外の利用を差し引いた上で、その他利用の日数 (209日) で割り返した数値 (R元年度実績)
コンサート利用	8,000人/日	プロモーター等への調査結果を踏まえ、1日当たり8千人を想定
その他イベント利用	2,000人/日	プロモーター等への調査結果を踏まえ、1日当たり2千人を想定
計	195,038人~325,169人	

(参考) 主な類似施設における利用者数

施設名	令和元年度		平成30年度	
	利用者数	利用収入	利用者数	利用収入
宮城県総合運動公園総合体育館	490千人	209,771千円	565千人	252,411千円
あづま総合体育館	118千人	11,551千円	93千人	2,075千円
高崎アリーナ	269千人	45,805千円	274千人	33,699千円
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	386千人	161,248千円	618千人	227,538千円
愛知県体育館	718千人	184,794千円	563千人	146,323千円
和歌山ビッグホール	276千人	62,995千円	—千人	—千円
大阪市中央体育館	663千人	241,844千円	772千人	267,873千円
岡山県総合グラウンド体育館	299千人	57,282千円	300千人	51,324千円
大村市体育文化センター	305千人	—千円	303千人	—千円
熊本県立総合体育館	258千人	78,518千円	315千人	81,508千円
鹿児島アリーナ*	365千人	—千円	279千人	—千円

※ 鹿児島アリーナの令和元年度利用者数には全国高校総体関係の約6万人を含む。

第2章 大まかな施設の規模・構成の検討

- 需要予測に当たっては、諸条件として、次のとおり県工業試験場跡地のシミュレーション（H30.11）時における規模・構成を仮置き
 - ・メインアリーナ：バスケ4面，観客席8千席程度
 - ・サブアリーナ：バスケ1面
 - ・柔剣道場：各3面
 - ・弓道場：近的（12人立），（遠的利用も可）

- これら施設の規模・構成については、今後、「総合体育館基本構想検討委員会」において、具体的に検討されることとなる。

- ここでは、同委員会の今後の検討に資するため、以下の論点を整理した。

論点1：施設構成の組み合わせパターン

⇒ メイン・サブアリーナ，柔剣道場，観客席の各施設構成で想定されるパターンをメリット・デメリットと合わせて整理

論点2：施設全体の組み合わせパターン

⇒ 論点1で整理した各施設構成の組み合わせパターンのメリット・デメリットや、類似施設の状況等を踏まえ、施設全体の組み合わせパターンを整理

《 今後の論点 》

(1) 施設構成の組み合わせパターン

各施設構成で想定されるパターンと考えられるメリット・デメリットを整理

① メインアリーナ・サブアリーナ

今回調査回答のあった類似施設のほぼ全てにおいて、メインアリーナがバスケット4面又は3面、サブアリーナが2面又は1面となっている。

なお、メインとサブでトータルの面数が変わらなければ、利用日数及び稼働率はほぼ同様と考えられる。

メイン	サブ	メリット・デメリット
バスケット 4面	バスケット 1面	○大会時に4試合ずつ開催でき、運営がしやすい。
	バスケット 2面	○上記に加え、アップスペースや関係者の控え室としての活用が容易 ○サブで開催できる大会が増える。 ●整備費用・維持管理費用が大きくなる（費用は延床面積に比例する）。
バスケット 3面	バスケット 2面	○「みるスポーツ」を行う際には観客席からの距離が近い。 ●大会時に、試合数が奇数となり、運営がしにくい。

② 柔剣道場

今回調査回答のあった類似施設では、柔剣道場各4面（計8面）～各2面（計4面）となっており、ほとんどが各2面となっている。

各4面は1施設のみであることから、今回は各3面と各2面の場合のメリット・デメリットを整理

なお、大会の需要については、規模の大きい大会の際にはメインアリーナ又はサブアリーナを使用すると考えられることから、面数を各2面（計4面）確保できれば大きな影響はないと考えられる。

	メリット・デメリット
柔剣道場 各3面 (計6面)	○一度に6試合ずつ開催でき、規模の大きい大会を実施しやすい。 ※ ただし、競技面数については、県大会レベル：4面、全国大会：8面が一般的 ●整備費用・維持管理費が各2面に比べ大きくなる（費用は延床面積に比例する）。
柔剣道場 各2面 (計4面)	○整備費用・維持管理費が各3面に比べ小さくなる（費用は延床面積に比例する）。

(整備費用・維持管理費について)

整備費用・維持管理費については、一般的に延床面積に比例すると考えられる。

延床面積は、規模・構成等により、施設毎に異なることから、単純に比較することは困難である。このようなことから、今回は、類似施設のフロア面積の比較を行ったところ、下記のような傾向であった。

1 サブ1面と2面のフロア面積

サブアリーナのコート面数1面の施設と2面の施設を比較すると、フロア面積が1.48倍(②/①)であった。

サブ1面のフロア面積の平均 955㎡・・・①

サブ2面のフロア面積の平均 1,411㎡・・・②

【サブ1面の施設[9]】

仙台市体育館，高崎アリーナ，大阪府立門真スポーツセンター，神戸総合運動公園体育館，高松市総合体育館，あづま総合体育館，愛知県体育館，大村市体育文化センター，宮城県総合運動公園総合体育館

【サブ2面の施設[7]】

福岡市総合体育館，東京体育館，豊田市総合体育館，大阪府立体育会館，大阪市中央体育館，広島県立総合体育館，鹿児島アリーナ

2 柔剣道場の各2面(計4面)と各3面(計6面)のフロア面積

柔剣道場の面数が各2面(計4面)の施設と各3面(計6面)の施設を比較すると、フロア面積が1.28倍(②/①)であった。

各2面(計4面)のフロア面積 1,011㎡・・・①

各3面(計6面)のフロア面積 1,292㎡・・・②

【柔剣道場各2面(計4面)の施設[8]】

高崎アリーナ，高崎市総合体育館，福岡市総合体育館，北海道立総合体育センター，豊田市総合体育館，大阪府立体育会館，大阪市中央体育館，鹿児島アリーナ

【柔剣道場各3面(計6面)の施設[1]】

県工業試験場跡地のシミュレーション時における各3面(計6面)の数値1,292㎡を使用

③ **観客席（収容人数）※ メインアリーナ**
 今回調査回答のあった類似施設では、ほとんどが、1万人規模～5千人規模となっている。

今回は、1万人規模、8千人規模、5千人規模について、プロモーター等へのヒアリング結果を踏まえ、メリット・デメリットを整理

なお、規模が大きくなれば、整備費用・維持管理費が大きくなる。

	メリット・デメリット
1万人規模	●開催の頻度が低くなることが想定され、結果的に、8千人規模と比較して、コンサートの利用日数及び稼働率が減少することが想定される。
8千人規模	○アリーナコンサートについて、一定の需要が見込まれる。
5千人規模	●同規模のアリーナコンサートでは、支出に見合った収入が見込みづらく、結果的に、8千人規模と比較して、コンサートの利用日数及び稼働率が減少することが想定される。

〔観客席の構成（固定席、可動席等）のイメージ〕

類似施設のうち、スポーツ利用が中心で、かつ最大収容人数が6,000人以上（中規模アリーナ）の施設の平均は、次のとおり

- ・最大収容人数 約8,200人
- ・固定席 約4,300席
- ・可動席 約2,000席
- ・移動席 約1,900脚

※ 移動席数は未調査のため、各施設の最大収容人数と固定席、可動席の差を移動席と仮定

(2) 施設全体の組み合わせパターン

各施設構成のメリット・デメリットや類似施設の状況を踏まえると、以下のような施設全体の組み合わせパターンが考えられる。

(考え方)

- ・メインアリーナの観客席（最大収容人数）については、専門家のヒアリング結果を踏まえ、8,000人規模を想定
- ・今回仮置きした条件から、メインアリーナ・サブアリーナについて、トータルの競技面数が変わらないメイン：3面、サブ：2面のパターンを想定
- ・今回仮置きした条件から、大会運営の利便性の観点等を踏まえ、サブアリーナの面数を2面に拡張するパターンを想定
- ・上記のパターンから、需要の面では影響が少ないと考えられる柔剣道場を各2面としたパターンを想定

	最大収容人数 (メインアリーナ)	競技面数			
		メインアリーナ	サブアリーナ	柔剣道場	弓道場
①今回仮置きした条件	8,000人	バスケット4面	バスケット1面	各3面	近的12人 (遠的可)
②アリーナの面数を変更 (メイン：4⇒3 サブ：1⇒2)	8,000人	バスケット3面	バスケット2面	各3面	近的12人 (遠的可)
③サブの面数を変更 (1⇒2)	8,000人	バスケット4面	バスケット2面	各3面	近的12人 (遠的可)
④③から柔剣道場の面数を変更(各3⇒各2)	8,000人	バスケット4面	バスケット2面	各2面	近的12人 (遠的可)

(参考) 主な類似施設における最大収容人数競技面数 (再掲)

施設名	最大 収容人数 (メイン)	アリーナ		武道施設		
		メイン (バスケット)	サブ (バスケット)	柔道場	剣道場	弓道場
北海道立総合体育センター	10,000	4	2	2	2	近12人
宮城県総合運動公園総合体育館	7,063	4	1	—	—	—
あづま総合体育館	6,000	3	1	—	—	—
群馬県総合スポーツセンターぐんまアリーナ	9,000	4	2	—	—	—
高崎アリーナ	6,015	4	1	2	2	—
有明アリーナ	15,060	3	2	—	—	—
東京体育館	10,000	4	2	—	—	—
武蔵野の森総合スポーツプラザ	10,000	4	2	—	—	—
いしかわ総合スポーツセンター	6,000	4	2	—	—	—
静岡県小笠山総合運動公園アリーナ	10,000	4	2	—	—	—
愛知県体育館	7,407	3	1	—	—	—
京都府立体育館	8,000	3	2	—	—	—
大阪府立体育会館	6,000	4	2	2	2	—
大阪府中央体育館	10,000	4	2	2	2	—
和歌山ビッグホール※	8,500	4	—	—	—	—
岡山県総合グラウンド体育館	5,084	4	1	—	—	—
広島県立総合体育館	10,001	4	2	4	4	近12人
大村市体育文化センター	5,000	3	1	—	—	—
熊本県立総合体育館	4,110	2	2	—	—	—
鹿児島アリーナ	5,700	3	2	2	2	近10人
全施設平均	9,477	3.45	1.59	2.3	2.3	—

※ 隣接の「和歌山ビッグウェーブ」にはバスケット2面のアリーナ及び柔剣道場計4面がある。